

CLT (Cross Laminated Timber) とは？

5/30 日の、南日本新聞で山佐木材(株)佐々木社長が「木造ビル」への夢を語っておられました。木造住宅が減少するなか、中高層ビルに木材を使おうと研究会を立ち上げられました。社長は 14 年前オーストラリアを視察した時、CLT で建てられたビルを見て以来、日本での普及を思い続けていたそうです。

CLT とはどんなものでしょう。製材した挽き板を並べた層を、板の方向が直交する様に重ねて接着したパネルです。合板が 1～2mm にスライスした板を直交して出来ているのに対し、挽き板 30mm 前後を直交して積層したものです。JAS では「直交集成材」として、規定されました。(2013/12/20 2014/1 施行)

CLT の建築材としての特徴は ①合板と同様に直交積層であるので寸法安定性が高い ②90～120mm の厚さがあるので断熱性・遮音性・耐火性・気密性が高い ③パネル自体が柱・梁や面材となり、接合部はビスと金具が基本の為、施工性がシンプルで熟練工でなくても可能。欧州では 9 階建て集合住宅を 4 名の技術者が 9 週間で施工、RC に比べ 1/3 程度の工期だった。④RC に比べ軽量であり、PC パネルに比べ 1/4 程度の重量で建物自体の地震力の軽減になる。地震国イタリアでは 7 階建ての建物の開発が進められている 等です。国産の杉でも十分な強度を有する CLT パネルの制作が可能であり、また比重が軽いことから CLT に適していると考えられ、高知県や岡山県ではこうした建築技術を取り入れることで木材需要が飛躍的に拡大されることを期待して公営住宅や社員住宅の開発に取り組んでいます。日本ではようやく JAS 規定ができましたが、建築基準法ではまだ認められていません。3 月の参議院予算委員会でも取り上げられ、H28 年度を目途に建築基準の策定を進めたいとの国土交通大臣の見解もありました。今後に期待したいものです。

【情報】

木材は品薄でも荷動きは悪い

梅雨を前に製品の動きは鈍っています。5 分板は絶対量が不足しており、問合せは多いが価格の折り合いがつかない状況が続いています。例年、梅雨時期には丸太価格が下がり、それに連動して製品価格が下がるものですが、今年は様子が違うようです。円安を背景にした輸出が好調で、バイオマス向け材の集荷も忙しいようです。今後の製品価格の動向は極めて不透明です。

【定休日】

6 月は 1, 7, 8, 14, 15, 22, 28, 29 日となります

7 月は 5, 6, 12, 13, 20, 26, 27 日となります

宜しくお願いします。



上：杉 CLT 下：オーストラリアの集合住宅